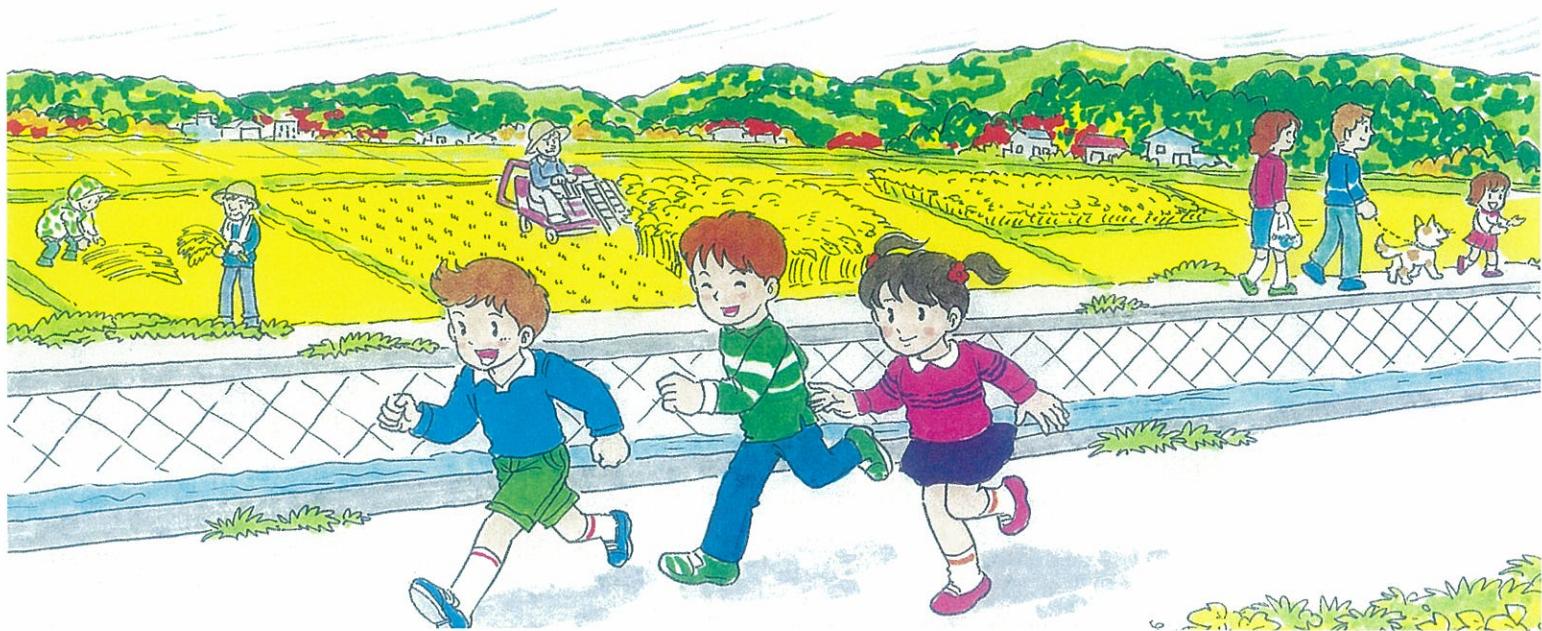


じゅう に ちょう がた ひら

# 十二町潟を拓く



上空から見た十二町潟



# 1 大昔の十二町潟

## 1-1. 縄文・弥生・平安時代

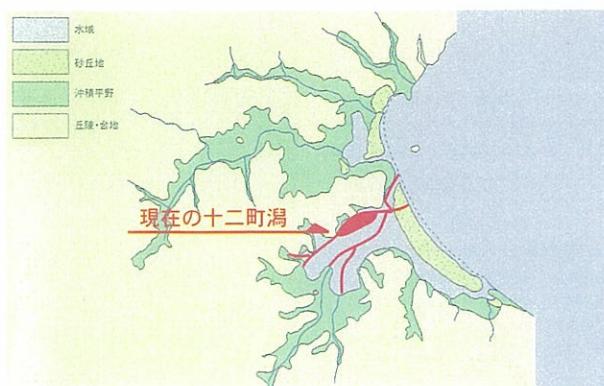
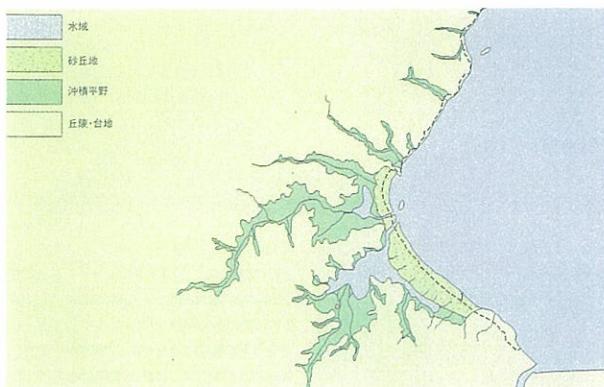
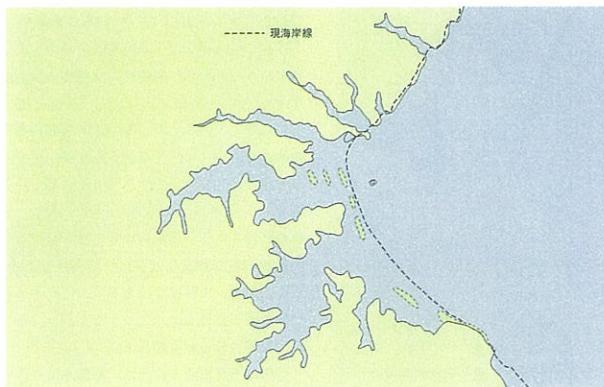
縄文時代の中ごろには、朝日貝塚から出土する貝殻はすべて海のものばかりであることから、十二町潟は海であった（布勢水海）といわれています。

その後、縄文時代の後期から海の水位が低くなり、海岸線が現在より100~200mも沖に退いていき、氷見砂丘は少しずつ大きくなっていました。その時に十二町潟は海とはなれ、潟の水は淡水となっていました。

弥生時代が過ぎ、平安時代になると海水位は少しずつ上昇しほぼ今と同じくらいになったのですが、土砂の堆積が少なかったので、そのころの布勢水海（現在の十二町潟）の面積は相当広く、当時の人々は魚をとったり舟遊びをしたりしていました。

それから1200年の間に仏生寺川、神代川、万尾川による土砂の堆積によりしだいに埋もれて布勢水海の面積が小さくなっていました。

### 海岸線のうつりかわり



### 1 縄文時代

海面は現在より6mほど高く、現在の平野はなかった。

### 2 弥生時代

海面が現在より2m程度低く、海岸線は沖に退いた。

### 3 平安時代

海面が現在より上昇しており、布勢水海が広がった。

※ 淡水=雨水や地下水、川の水など、塩けのない水

※ 堆積=水の底などに土や砂がつもること

## 1-2 大伴家持の時代

- (1) 現在の十二町潟はごく小さい潟ですが、大伴家持の時代には「布勢水海」と呼ばれる大きな水海でした。
- (2) 大伴家持は746年から751年に越中の國の國守として奈良の都から越中国府(現在の伏木)に移り住んでいました。大伴家持は万葉の歌人でもあります。国守としての仕事が休みのときにしばしば布勢水海に家来達や遠く都からたずねてきた友と舟遊びをしたり、歌を詠んだりしていました。



\* 國守=地方の國々をおさめる役人のかしら  
\* 越中国府=むかしの役所のあったところ

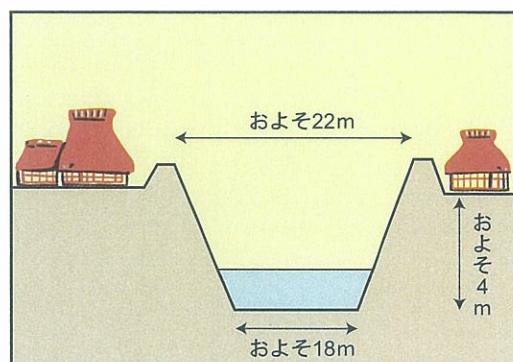
## 2 水害とのたたかい

### 2-1. 新川ができるまで

平安時代から江戸時代までの十二町潟の排水路は、現在の湊川にてて、富山湾に流れていました。しかし湊川は川幅が狭く急カーブが2ヶ所あったため、大雨の時には田んぼに水がつき、人々は大変苦労をしました。

そこで、新しい排水路を作るため3度も加賀藩にお願いしましたが、下流の氷見町からの反対にあい、なかなか実現できませんでした。

しかし氷見町にも水害があったことで、反対者が少なくなり十二町村の豪農「矢崎嘉十郎」が何度も願い出てやっと許可がでました。そして明治元年、新川を掘る工事が始まりました。川の大きさはおよそ上幅22m、下幅18m、深さ4m。当時は機械がないのでクワなどを使い人手で、74,434貫（今のお金で約100億円）の費用をかけて明治2年に完成しました。

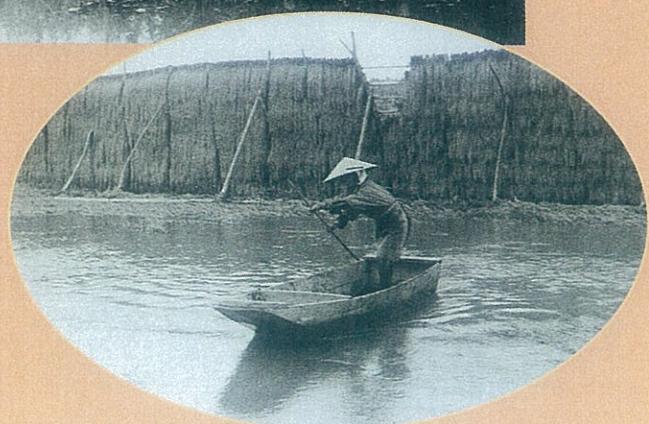


※ 加賀藩=現在の石川県と富山県をおさめていた役所  
※ 豪農=多くの土地と財産をもつたかな農家

## 2-2. 稲作の苦労

新川ができたことによって、十二町潟の排水は昔に比べてたいへんよくなつきましたが、それでも1年に1・2度は稻が水につかりました。そのような水害をなくすために、曲がりくねった仏生寺川をまっすぐにし、※しつでん湿田を乾田にするよう努力したのが陸田家8代目の九左衛門でした。

### 水害のようす



※ 湿田=一年中水がなくなるない田んぼ

※ 乾田=水はけの良い田んぼ

## 3

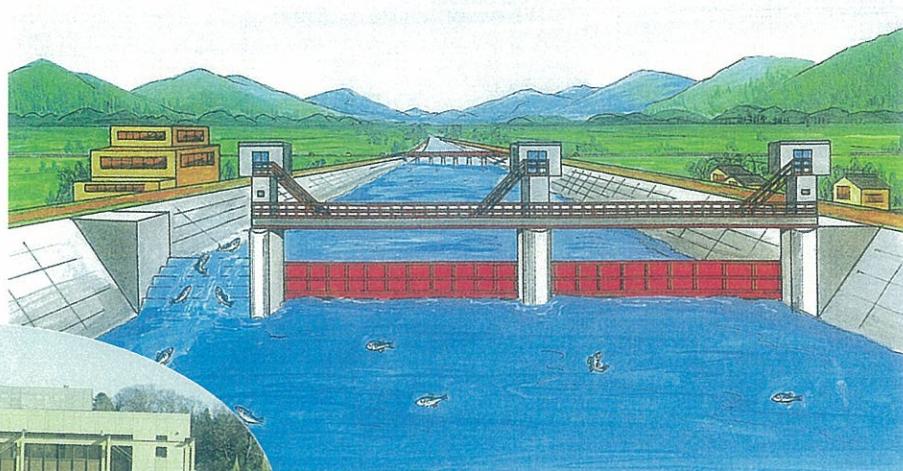
しつでん かんでん  
3 湿田から乾田へ

3-1. はいすい きじょう しおど  
排水機場・潮止め水門

明治19年までにはおよそ120ha、昭和21年にはおよそ500haまで開田が進みました。昭和21年からは現代的な工法で潮止め水門や排水機場の建設が国や県により進められ、よりいっそう乾田化が進みました。

現在、国で作った大きな排水機場のおかげで、元十二町潟であったところに工場や家が建てられるようになりました。

排水機場には、すいこみ口の直径が80cmのポンプが1台、2mのものが3台あります。



平成15年に完成予定の潮止め水門



十二町潟排水機場

排水機場がなかったらどうなるかな?  
AとBをむすんで水色をぬってみよう。  
住宅や工場が水の中になってしまふよ!



※ 潮止め水門=海の水が川に逆流しないようにつくられた水門

※ 排水機場=洪水にならないように川の水を強制的に海に流すためにつくられたポンプ場

※ ha (ヘクタール)=面積の単位 (1haは100m×100mの大きさ)

## 3-2. 用水路と排水路

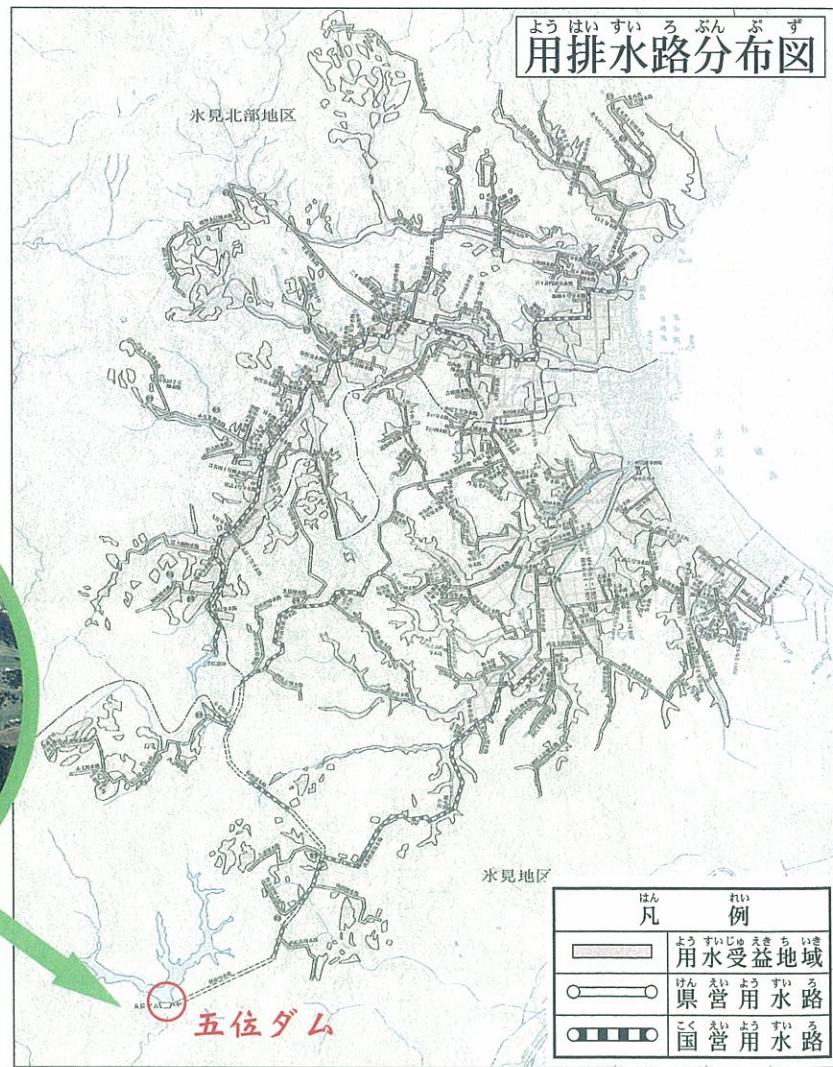
### (1) 用水路について

十二町潟はいつも10cm~30cmの水位があり、あまり用水には苦労しませんでした。それでも夏になると、用水不足になり、足ふみ水車やバケツで水をくみ入れていました。水不足は下流に行くほど激しくなり、用水路の堰を高くして水位を上げ田に水を入れるように工夫しました。それでも、水によるもめごとがよくおきました。

現在では、福岡町に五位ダムができ、そこから用水を引いてきて十二町の近くにある岩田池、尾谷池、矢田部谷内池などのため池に用水を貯め水不足を解消しています。

### (2) 排水路について

十二町には大きな排水路として万尾川と仏生寺川があります。万尾川については、現在富山県で下流側から改修して、田や宅地に水がつかないようにしています。



\* 堰 (せき) = 水の流れをとめたり、調整するために  
川の中にいれるしきり

この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を  
複製縮小したものである。(承認番号) 平12北模、第145号

# 4 水生生物を守る

## 4-1. 水生の植物

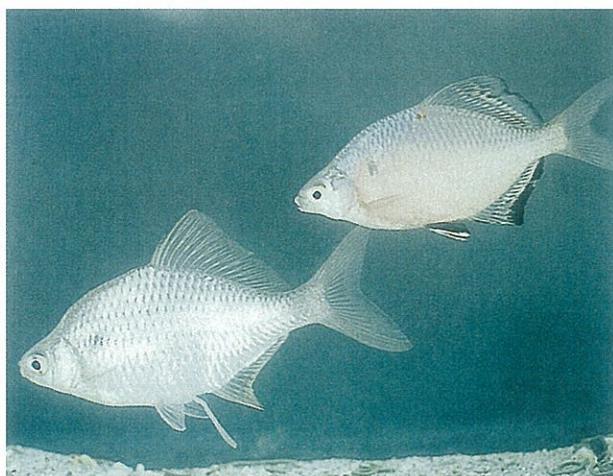
十二町潟には、天然記念物のオニバスがありますが、最近では60cm～70cmにしか育たず、数も減少しているので氷見市や地元の小学校などにより保護されています。オニバスのほかにも、ヒシやサンショウウモなどいろいろな水生植物が生息しています。



オニバス

## 4-2. 湿地の魚たち

十二町潟に沿って流れる万尾川には天然記念物のイタセンバラがすんでいることが平成元年の調査でわかりました。そのほかにも、タイリクバラタナゴ、ヤリタナゴ、ナマズ、ドジョウなど多くの魚がすんでいます。



イタセンバラ（天然記念物）



タイリクバラタナゴ

見分け方 イタセンバラ  
と  
タイリクバラタナゴ

- ①エラブタの上に黒いはん点があること
- ②シリビレのところに黒いふちどりがあること  
この2つがあるときはイタセンバラになります。

## 4-3. 現在の十二町潟の様子

現在の十二町潟は、細長く小さくなっています。水郷公園として昔の姿を残しています。万尾川についても水生生物を守る工夫をしながら改修の工事を進めています。



ワンド  
(万尾川)



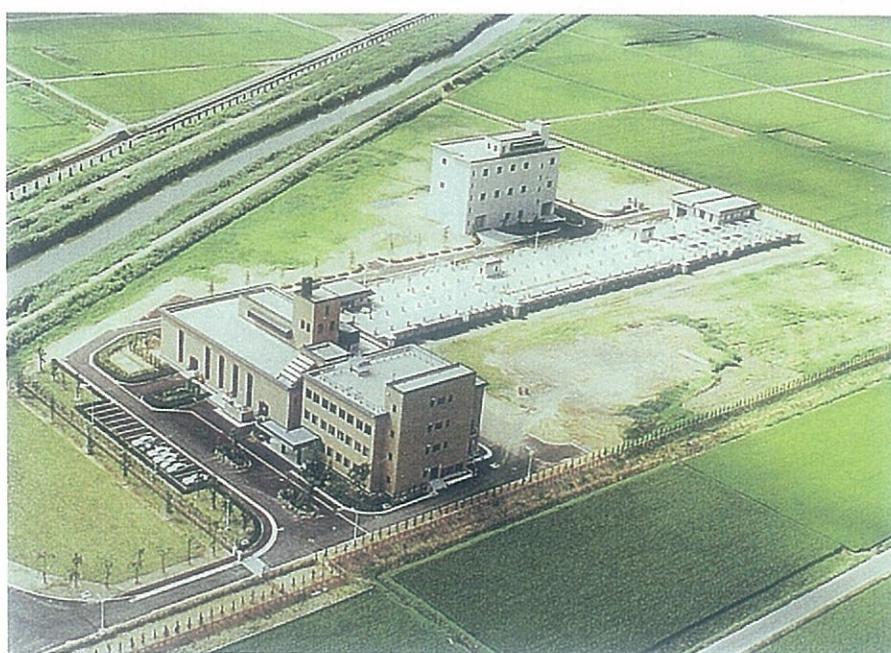
水郷公園



万尾川

## 4-4. 水をきれいに

きれいな川の水を守るために、氷見市では下水処理場をつくり、生活の排水や工場からでる排水をきれいにして、川の水が汚れないようにしています。



氷見市下水処理場

※ ワンド=魚や貝がすみやすいように川の横に作られた池



# 十二町周辺地図



布施の円山

今の十二町は、昔は布勢水海ふせのみずうみとよばれるおおきな水海みずうみだった。  
そこにぽつんと島しまがあった。布施の円山まるやまとはその島のことである。

年組  
なまえ